

Marshall

AMPLIFICATION

MG



MG15FXMS

Owners Manual

Marshall



ジム・マーシャルのメッセージ

次世代マーシャルMGをお買い上げいただきありがとうございます。

私自身もミュージシャンであるため、バンドで生演奏をするために何が必要かは、よく承知しています。才能、勤勉さ、絶え間ない努力——それらに加えて、要求にこたえてくれる機材が必要なのです。私は長年にわたってアンプ・テクノロジーの世界における数々の進化を目撃し、新MGシリーズには、このような革新を最大限に生かしたいと考えました。このソリッドステート・アンプは、現代のギタリストが求めるトーンを実現しつつ、エキサイティングな最新技術をとりにれたものにする必要がありました。この目標を念頭において私は、お求め安い価格で提供でき、求めるトーンを実現するだけでなく、お気に入りのマーシャル・トーンや機能のカスタマイズ、保存、アクセスが直感的にできる、完全にプログラム可能な新しいMGシリーズを設計するよう、経験豊富な当社の研究開発チームに指示しました。

新しいMGシリーズは、最先端の製造技術を使用し、厳しい品質管理を行うことにより、すべてのマーシャル製品に期待される水準の高さを実現しています。

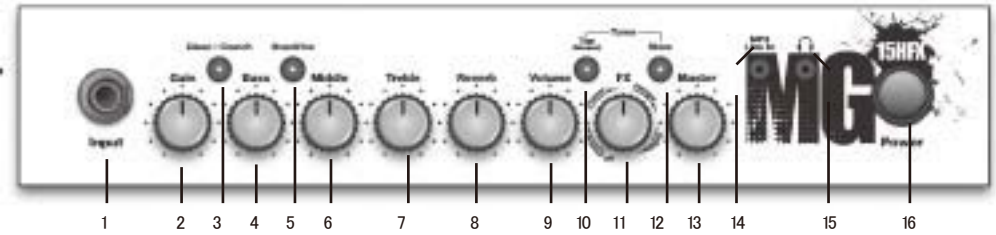
これがあなたにとって初めてのマーシャルであっても、充実したコレクションに加える1台であっても、このコンパクトで頑丈なアンプのトーンとフィールと柔軟性は、ご自宅や楽屋でも、ステージの上でも、きっとご期待に沿うものとなるでしょう。

新しいマーシャルをパートナーにした皆さんの音楽活動のご成功をお祈りします。ますます広がるマーシャル・ファミリーへようこそ……

Dr. Jim Marshall OBE

Dr. Jim Marshall OBE

MG15FXMS



1. インプット・ジャック

ギターを接続します。ノイズや干渉、不要なフィードバックを防止するため、高品質のギター・ケーブル(シールド・ケーブル)をご使用ください。

2. ゲイン・コントロール

プリアンプ部に入る信号の量と、選択されたチャンネルで発生するディストーションの量を調節します。

3. クリーン/クランチ・スイッチ

クリーン(緑)またはクランチ(赤)・チャンネルのいずれかを選択します。

4. ベース・コントロール

ベース・コントロールを上げると、サウンドに温かさとローエンドの深みが増えます。

5. ODスイッチ

OD1(緑)またはOD2(赤)・チャンネルのいずれかを選択します。

6. ミドル・コントロール

中音域を調節し、サウンドのボディを変化させます。

7. トレブル・コントロール

トレブルを上げるとサウンドに明るさと切れが増え、下げるとソフトなサウンドになります。

8. リバース・コントロール

選択されたチャンネルに豊かでみずみずしいリバースを加えます。さりげない感じから洞窟の中のような残響まで、多様なサウンドが得られます。

9. ボリューム・コントロール

選択されたチャンネルの音量を調節します。

10. タップ(マニュアル)・スイッチ

2度押しと、1度目と2度目の間にディレイ・エフェクトのタイムを合わせることができます。設定したディレイ・タイムに合わせてLEDが点滅します。タップ・スイッチを2秒以上押し続けると、マニュアル・モード/プリセット・モードの切り替えができます。

オプションのフットコントローラーを使用する時は、タップ・スイッチとストア・スイッチを同時に押し続けると、チューナーが作動します。

11. エフェクト・コントロール

コーラス、フェイザー、フランジャー、ディレイの4つのエフェクトのいずれかを選択し、調節します。

12. ストア・スイッチ

現在のアンプの設定を現在のチャンネルまたはオプションのフットコントローラーに保存します。マニュアル・モードの時は、ストア・スイッチが赤く点灯します。

13. マスター・コントロール

アンプのマスター・ボリュームを調節します。

14. MP3ライン・イン・ジャック

お好きなMP3、CD、テープ・トラックなどに合わせてジャミングする時は、ここにプレイヤーのライン・アウトまたはヘッドホン出力を接続し、プレイヤーの音量をギターに合わせて調節すれば、理想的な練習用システムができます。

15. ヘッドホン・ジャック

無音で練習する時に使用します。ヘッドホンを接続すると内部スピーカーが自動的にミュートされます。

16. 電源スイッチ

アンプの電源をオン/オフします。電源を入れるといずれかのチャンネル・スイッチが点灯し、電源を切ると消えます。

注:ご使用のアンプの入力電圧の定格値はリアパネルに表示されています。電源に接続する際には、アンプと電源の電圧が整合していることを確認してください。疑問がある場合は、購入店でご相談ください。

アンプを移動する時は、電源をオフにし、電源コードが外れていることを確認してください。

MG15FXMS 概要

チャンネル選択

このアンプには、クリーン、クランチ、OD1、OD2の4チャンネルがあります。

クリーン／クランチ・スイッチ(3)を押すと、クリーン(緑のライト)またはクランチ(赤いライト)・チャンネルを選択できます。

ODスイッチ(5)を押すと、OD1(緑のライト)またはOD2(赤いライト)・チャンネルを選択できます。

クリーン／クランチ・チャンネルからいずれかのODチャンネルに移る時、アンプは最後に選択していたチャンネルを記憶します。例えば、クランチ・チャンネルからいずれかのODチャンネルに移った場合、次にクリーン／クランチ・スイッチ(3)を押した時に、アンプはクリーン・チャンネルには戻らずに、クランチ・チャンネルに戻ります。

モード

このアンプは、プリセットとマニュアルの2つのモードで作動します。

モードを切り替えるには、タップ・スイッチ(10)を2秒以上押さえたままにします。マニュアル・モードが選択されている時は、ストア・スイッチ(12)が赤く点灯し、選択されたチャンネルのライト(3または5)が点滅し始めます。

アンプは、電源を切る前に選択されていたモードを記憶し、次に電源を入れた時には同じモードに戻ります。

プリセット

工場出荷時に選択されているモードです。

プリセット・モードでは、マスター・ボリューム(13)を除くすべてのコントロールの設定が各チャンネルに保存されています。それぞれのチャンネルにプリセットがあります。

チャンネルを選択すれば、そのチャンネルに保存されている設定が自動的に呼び出されます。注：保存できないマスター・ボリューム(13)を除くフロントパネルのコントロールの位置は、アンプの実際の設定と一致しなくなります。フロントパネルのスイッチはすべて自動的にアップデートされます。

コントロールを動かすと、これに関連するパラメーターが、そのコントロールの実際の位置へジャンプします。

コントロールを動かすと、選択されているチャンネルのライト(3または5)が点滅を始め、現在のプリセットが変更されたことを知らせます。

新しい設定を保存するには、ストア・スイッチ(12)を押します。

ストア・スイッチ(12)を押さずに別のチャンネルを選択すると、設定の変更は保存されず、新しいチャンネルの設定が呼び出されます。

マニュアル

マニュアル・モードでは、アンプの設定は常にコントロールの実際の位置と一致しています。

チャンネルを変更すると、チャンネルが変わるだけで、プリセットは呼び出されず、他のコントロールの設定は変更されません。

ストア・スイッチ(12)を押すと、選択されたチャンネルに現在の設定が保存されます。これはプリセット・モードでアンプを使用する時に呼び出すことができます。

チャンネルの設定を保存すると、現在のチャンネルのライト(3または5)の点滅が止まり、プリセットが保存されたことを知らせます。

リバーブ & エフェクト

このアンプは、同時に2つのエフェクトを使用することができます。それはリバーブと4つのエフェクト(コーラス、フェイザー、フランジャー、ディレイ)のいずれかです。

リバーブ

リバーブ・コントロール(8)は、リバーブ・セクションに送る信号の量を調節します。さまざまなプリセットを呼び出す時に、リバーブを2つのチャンネルにスビルさせることができます。リバーブ・コントロール(8)の設定を「0」にすると、リバーブはオフになり、リバーブの状態はオプションのフットコントローラーにも表示されます。

エフェクト

エフェクト・コントロールは、4つに分割され、エフェクトのタイプを選択し、そのエフェクトにかかわる設定を調節します。エフェクト・コントロールの設定を「0」にすると、エフェクトはオフになり、エフェクトの状態はオプションのフットコントローラーにも表示されます。

0	エフェクト・オフ
コーラス	つまみを時計回りに回すと、スピードが上昇し、デプスが減少します。
フェイザー	つまみを時計回りに回すと、スピードが上昇します。
フランジャー	つまみを時計回りに回すと、スピードが上昇し、フィードバックとデプスが減少します。
ディレイ	時計回りに回すと、ディレイ・レベルが上昇します。

タップ・テンポ

タップ・テンポ・スイッチ(10)は、ディレイ・エフェクトのみに使用します。

タップ・テンポ・スイッチを2度押すと、1度目と2度目の間の時間にディレイ・エフェクトのタイムを合わせることができます。

タップ・テンポLEDは、選択または呼び出されたディレイ・タイムに合わせて赤く点滅します。

ディレイ・タイムが減少するにつれてリピートの回数も減少します。

ディレイのあるチャンネルからディレイのないチャンネルに移ると、エフェクトは2つのチャンネルにスビルします。

ディレイのあるチャンネルから異なるディレイ・タイムに設定されたチャンネルに移ると、ディレイ・エフェクトは2つのチャンネルにスビルしません。

MP3／ライン・イン

3.5mmのMP3／ライン・イン・ジャック(14)により、外部の音源(MP3やCDプレイヤー)を接続できます。

ヘッドホン

3.5mmのヘッドホン・ジャック(16)により、ヘッドホンを接続できます。ヘッドホン・ジャックにプラグをさしこむとアンプのスピーカーはミュートされます。

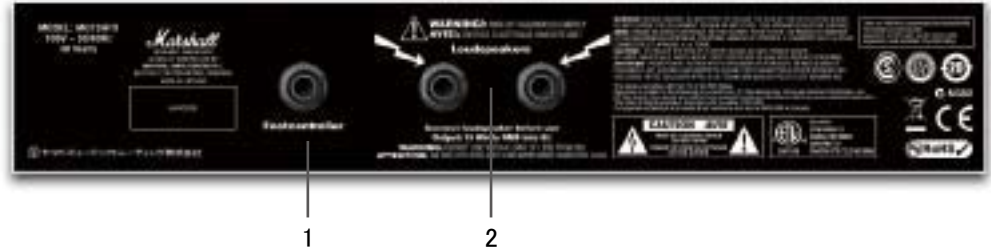
電源

電源スイッチ(17)は、アンプをオン／オフします。保存されていない設定は消去されます。

設定のリセット——警告：アンプおよびフットコントローラーの設定がすべて消去されます。

アンプを工場出荷時の設定にリセットするには、ストア・スイッチ(12)を押しながらアンプの電源を入れてください。クリーン／クランチ(3)およびOD(5)のライトがオレンジ色に点灯するのを確認してからストア・スイッチ(12)を放してください。

アンプをリセットすると、ユーザー・チャンネル・プリセットとユーザー・フットコントローラー設定がすべて消去され、工場出荷時の設定にリセットします。



1.フットコントローラー・ジャック

フットコントローラーを接続します。

2.ラウンドスピーカー出力

付属の2基のラウンドスピーカー・キャビネットを付属のスピーカー・ケーブルを用いて接続してください。

MG15FXMSアンプ・ヘッドを別のスピーカー・システム(フルサイズの4×12”キャビネットなど)と合わせて使う場合は、スピーカーのインピーダンスの合計をかならず8Ω以上にしてください。

注：このアンプは欧州連合の電磁場適合性(EMC)規制法[環境E1、E2、E3]および低電圧機器規制法に準拠しています。

欧州のみ —— 注：MG15FX の最高入力電流は 2.5 アンペアです。
MG30FX の最高入力電流は 5 アンペアです。

このアンプは連邦通信委員会(FCC)規定第15部の定めるB種デジタル装置の規制に準拠しています。

上記の規制は、装置を住宅地に設置した場合に電波の干渉を防止するために定められています。このアンプは高周波の電気を使用するため、無線周波帯の電波を発生させることがあります。注意書きに従って正しく設置しなければ、無線通信の障害の原因となります。しかし、特殊な設置をした場合は干渉が起こらないという保証はありません。このアンプがラジオやテレビの受信の干渉の原因となった場合(装置の電源を入れたり切ったりすることによって確認できます)、以下の方法によって干渉をなくすようにしてください。

- ◆ 受信アンテナを調整するか、位置を変える。
- ◆ 干渉している受信機からアンプを離す。
- ◆ アンプを受信機とは別の回路にあるコンセントに接続する。
- ◆ ご購入の店、または電気店に相談する。

すべての注意書きに従い、警告を守ってください
この取扱説明書は保存してください

フットコントローラー (オプションPEDL 90008)

1. フットスイッチ

それぞれのフットスイッチに異なる機能を割り当てられます。

2. LEDステイタス・パネル

アンプまたはチューナーの現状を表示します。

CLN & OD: 現在のチャンネル

REV: リバースのオン/オフ

FX: エフェクト・セクションのオン/オフ

EXT FX: 外部エフェクト・ループのオン/オフ (MG50FXおよびMG100FX)

DAMP: ダンピングのモード (MG50FXおよびMG100FX)

TAP: タップ・テンポのスピード。

3. デジタル・ディスプレイ

このディスプレイは、フットコントローラーのさまざまな機能を表示します。



フットコントローラー (PEDL-90008) は、MG15FXおよびMG30FXにはオプションで追加できます。

フットコントローラーの工場出荷時設定

フットスイッチ1: クリーン/クランチ・スイッチ

フットスイッチ2: ODスイッチ

フットスイッチ3: タップ・テンポ・スイッチ

フットスイッチ4: チューナー

プログラミング

フットスイッチをプログラミングして、フロントパネルのスイッチの保存 (スイッチ保存) または完全なプリセットの保存 (プリセット保存) ができます。

スイッチ保存

フロントパネルのスイッチをフットスイッチ(1)に割り当てるには、フロントパネルのスイッチを押したままにしながら、それを割り当てたいフットスイッチ(1)を押します。

デジタル・ディスプレイ(3)にU字の模様が表れ、フットスイッチが割り当てられたことを示します。これを確認してからフットスイッチとフロントパネルのスイッチを放してください。

プリセット保存

プリセットをフットスイッチ(1)に割り当てるには、必要なチャンネルを選択し、必要に応じてフロントパネルのコントロールを調節し、フロントパネルのストア・スイッチを押さえたままにしながら、これを割り当てたいフットスイッチ(1)を押します。

デジタル・ディスプレイ(3)にU字の模様が表れ、フットスイッチが割り当てられたことを示します。これを確認してからフットスイッチとストア・スイッチを放してください。

フットコントローラーのプリセットは、アンプの中に保存されている各チャンネル専用のプリセットから独立しています。そのため、同じチャンネル/プリアンプ部の設定をベースに複数のプリセットをつくることができます。

チャンネル・プリセットまたはフットスイッチ・プリセットのいずれかが変更されると、デジタル・ディスプレイ(3)が点滅し始めます。フットスイッチ・プリセットが変更された時はその番号が点滅し、チャンネル・プリセットが変更された時は「-」が点滅します。

この時点でストア・スイッチだけを押すと、変更されたチャンネルまたはフットスイッチのプリセットが書き込まれます。

変更されたチャンネル・プリセットをフットスイッチに保存するには、ストア・スイッチを押しつづけながら、選択したフットスイッチ(1)を押します。これは通常のプリセット保存と同じ手順です。

変更されたフットスイッチ・プリセットを別のフットスイッチに保存するには、ストア・スイッチを押しつづけながら、選択したフットスイッチ(1)を押します。これは通常のプリセット保存と同じ手順です。

デジタル・ディスプレイ

フットスイッチ・プリセットが呼び出された時は、デジタル・ディスプレイ(3)にフットスイッチの番号が表示されます。

チャンネル・プリセットが呼び出された時は、デジタル・ディスプレイ(3)には何も表示されません。

チャンネル・プリセットまたはフットスイッチ・プリセットのいずれかが変更されると、デジタル・ディスプレイ(3)が点滅し始めます。フットスイッチ・プリセットが変更された時はその番号が点滅し、チャンネル・プリセットが変更された時は「-」が点滅します。

チューナー

チューナーは2つの方法でアクセスできます。

フロントパネルのタップ(10)およびストア(12)のスイッチを同時に押すか、チューナーをフットスイッチに割り当てます。注: 工場出荷時の状態にリセットした場合は、初めて電源を入れた時にチューナーはすでにフットスイッチの4番に割り当てられています。

チューナーをフットスイッチに割り当てる手順は、他のスイッチの保存と同じです。チューナーをフットスイッチに割り当てるには、タップ(10)とストア(12)のスイッチを同時に押さえずながら、それを割り当てたいフットスイッチを押します。デジタル・ディスプレイ(3)にU字の模様が表れ、フットスイッチが割り当てられたことを示します。これを確認してからフットスイッチとフロントパネルのスイッチを放してください。

どのアンプの場合も、チューナー・モード選択時にはアンプはミュートされ、クリーン/クランチ(3)およびOD(5)スイッチが黄色く点灯します。

デジタル・ディスプレイ(3)に、現在演奏されているノートに最も近いノートが表示されます。右下の角にある点は、現在演奏されているノートが最も近いノートより高いことを示します。

LEDステイタス・パネル(2)は、最も近いノートと演奏されているノートがどれくらい離れているかを表示します。中央のエフェクト・ステイタスLEDが点灯している時は、チューニングが合っていることを示しています。他のLEDは、+50セントから-50セントまで、チューニングが上または下であることを示します。

チューナーを終了するには、いずれかのフットスイッチを押してください。アンプは、チューナーを使用する前の設定に戻ります。